銅・アルミ市況見通し

3月

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏レポート

銅

1月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で2%増の5万8869ㅌ。対前年同月比でのプラスは26カ月ぶり。需要は5G通信と自動車向けが牽引している。

品種別では銅条が2万1340ㅌで同17%増、黄銅条が7633ㅌで同6%増、青銅板条が2359ㅌで同21%増、黄銅棒が1万3596ㅌで同5%減、銅管が7314ㅌで同14%減。

1月の銅電線出荷量は同6・5%減の5万700ㅌで、うち国内が同6・6%減、輸出が同0・5%減。

銅輸出は、電気銅が同1・8%増の4万7976ㅌ、銅スクラップが同21・6%増の3万1577ㅌ。

銅輸出は相場の急騰や米中景気の回復期待から増加した。

銅輸入は、電気銅が同84・6%減の200ㅌ、銅スクラップが同0・8%増9534ㅌだった。

銅輸入は電気銅が相場の急騰で大幅減となった。

3月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	8500～10000ドル	強い
電気銅建値	92～110万円	強い
為替（1ドル）	104～106円（1カ月間TTM）	円高

銅スクラップ景況予想

銅建値が86万円から102万円まで急騰した過程で、流通在庫は放出された。伸銅品生産の減少に伴い発生も減少しており、今後も玉は不足する。

需要面は前月から一転、国内の自動車生産販売が減少した。この要因は半導体不足や地震によるものだと考えられる。このためある時点がくれば需要は急回復し、それに伴い需給もひっ迫すると見ている。

LME銅・為替予想

今月は「米金融緩和の長期化観測」と「ワクチン接種による感染拡大抑制問題」に左右される。

前者は、パウエル議長がインフレについて「大部分で弱い」との見解を示し、「米経済は雇用とインフレ目標に達するまで長い道のりがある」と述べた。このことから金融緩和は当面維持されると見ている。

後者は、米国での接種回数が2月中旬時点で1日当たり140万回（7日間の平均）に達するなど、ペースが加速。このため感染拡大が治まるのは時間の問題だと感じている。

アルミ

1月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同0・9%増の13万4221ㅌとなり3カ月ぶりに前年同月を上回った。生産量は板類が同4・5%増の8万851ㅌ、押出類が同4・1%減の5万3370ㅌだった。

1月のアルミニウム2次合金・同合金地金生産は同2・5%増の6万4116ㅌ（3カ月連続の増）。出荷は同1・9%増の6万4113ㅌ（3カ月連続の増）だった。

輸出はアルミ新地金が同167・7%増の164ㅌ、アルミ2次合金が同29・8%増の2383ㅌ、アルミスクラップが同4・2%増の1万3800ㅌ、アルミ缶が同19・8%減の7313ㅌ。

輸入はアルミ新地金が同22・6%増の11万9997ㅌ、アルミ二次合金が同16・2%減の8万7752ㅌ、アルミスクラップが同6・6%増の460ㅌ、アルミ合金スクラップが同60・6%増の5463ㅌだった。

3月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後場買い	2000～2200ドル（現物後場買い）	強い
スクラップ	据え置き～プラス5円（前月最終価格より）	強い
為替（1ドル）	104～106円（1カ月間TTM）	円高

アルミスクラップ景況予想

LME価格が2000ドルから2200ドルに急騰した過程で販売していることや自動車生産の減産に伴う発生減により、流通在庫は少ない。

需要面は相場急騰に伴い、上がる前の先行買いが進行した。ただ、メーカーの在庫は潤沢だ。